様式３

学校番号 90

令和５年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立嘉穂総合高等学校（大隈城山校）

自己評価

学　校　運　営　計　画　（４月）

評価（総合）

学校運営方針	総合的で活力ある教育を、情報を基調とする家庭に関する学科において展開することにより、高度情報通信ネットワーク社会の幅広い分野で活躍できる人材を育成する。また、勤労と責任を重んじ、社会の有意義な形成者となり得る資質を、地域と連携し育成する。

昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
＜成果＞ 1 生徒の学習到達度や各自の特性に応じて、個に応じた授業が展開できた。 2 地域社会と連携し、多様なボランティア活動を行い、生徒の社会性を大いに高めることができた。 3 個別の教育支援計画や個別の指導計画の定期的な見直しを行い、職員全体で内容を共有した。そのため生徒の課題の早期発見に努め、一人一人に寄り添った指導ができた。 ＜課題＞ 1 基本的生活習慣の確立による出席状況の改善と、ICTの有効活用による確かな学力の育成 2 体験型を重視した低学年からの計画的キャリア教育の実施 3 豊かで逞しい心を育むための発達支持的生徒指導（SEL-8Cプログラム導入）と教育相談等の充実 4 学習成果を生かした学校行事の充実と生徒会活動の活性化による生徒の自主性の育成 5 地域の世代間交流、地域活性化に繋がるボランティア活動の推進	（1）基本的な生活習慣の確立と規範意識育成	・生徒の心身の健康及び自己管理を支援する相談機能の充実 ・保護者との連絡と緊密な連携による出席状況の改善 ・学校生活全般及び生徒主体の集会・学校行事における規範意識育成 ・美化活動・ボランティア活動を通した道徳性の涵養
	（2）生徒の実態に応じた魅力ある授業の実践 （個に応じた授業、確かな学力の育成、ICT活用の充実）	・生徒一人一人の個性の把握と、個別の指導目標に応じた能力の伸張 ・観点別評価の充実による指導と評価の一体化を軸とした授業改善 ・ICTの効果的な活用による学び直しのサポートと主体的に学ぶ生徒の育成 ・生徒によるICT活用の推進と「分かる授業」を目指した職員研修の充実
	（3）人権尊重の精神を基盤とした安心・安全な教育環境の構築 （いじめの撲滅）	・自他の人権や生命を尊重する心といじめを許さない雰囲気の醸成 ・教育相談等の充実による生徒の情緒の安定と自己有用感向上 ・言語環境の整備及びコミュニケーション力を高める特別活動の実施 ・生徒の安全・安心を確保する危機管理体制の確立と学校安全の推進
	（4）特別支援教育の充実	・教育活動のユニバーサルデザイン化の推進 ・合理的配慮に基づいた生徒一人一人が学びやすい環境づくり ・特別支援の視点に立った学校環境の整備と充実 ・外部機関との連携による卒業後まで見通した計画的支援
	（5）生徒一人一人のキャリア形成と第一希望進路の実現	・低学年からの計画的指導による生徒のキャリアプランニング能力の向上 ・インターンシップ等体験型プログラムによる健全な職業観･勤労意欲の育成 ・卒業までに生徒に身に付けさせるべき能力・技能習得の計画的実践 ・奨学金等の情報提供及び人権感覚に基づいた適切な就学・就職支援
	（6）地域との連携及び広報活動の充実	・地域に向けた積極的な情報発信 ・地域の異世代との交流による生活情報科の学習成果の地域への還元 ・地域活性化に繋がる学校全体でのボランティア活動の促進 ・嘉麻市高校生議会への参加等、地域社会に貢献できる人材の育成

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	基礎学力の定着と向上を図る。	学び直しの学習を取り入れ、義務教育段階の学習内容の定着を図る。				
		考査前学習会を充実させ、基礎学力の定着を図る。				
	魅力ある授業の構築を図る。	職員相互に授業参観を行い、タブレットや電子黒板等のICT機器の効果的な活用に努める。				
		観点別評価による指導と評価の一体化を図ることで、授業に意欲的に取り組む生徒を育成する。				
	個の実態に応じた授業内容の構築を図る。	合理的配慮に基づいた生徒の実態に合わせた教科指導を行う。				
		生徒の授業に対する意識を高め、実態を把握するため学期毎に授業評価を実施する。				
進路指導部	社会人として必要な職業観の育成を図る。	インターシップやボランティアを実施することで職業意識の向上を図る。				
		応募前職場見学を積極的に活用することで、企業人として必要な資質を学ばせる。				
	効果的なキャリア教育を実施する。	外部機関との連携を図り、進学ガイダンスや工場見学等を学期毎に実施する。				
		キャリアノートの活用を充実させ、毎日の生活や学習を振り返ることで、自らの成長を促す。				
	それぞれの進路希望に合わせた進路実現を目指す。	奨学金等の情報提供や生徒の進路希望を充分に把握するため、進路面談を充実させる。				
		担任、特別支援コーディネーター、就職指導員と連携を深め生徒の適性に応じた進路選択を行う。				

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A　：　適切である B　：　概ね適切である C　：　やや適切である D　：　不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

生徒指導部	生徒が伸び伸びと安心して学校生活を送れる学校づくりを目指す。	個人面談や教育相談、家庭訪問や三者面談等を通して生徒理解に努める。						
		学校生活アンケート・いじめアンケート調査・相談ポスト・校内巡視等によって、生徒の抱える悩みに早期に対応する。						
	生徒会活動を通して自主的・計画的に行動できる資質を養いリーダーを育成する。	全校朝礼の司会・運営、月1回の清掃活動を実施して、学校や地域への帰属意識を高める。						
		行事ごとに生徒からのアイデアを可能なかぎり反映させ、学校行事への参加意識を高める。						
	地域社会と連携してボランティア活動を推進し、地域の活性化に寄与する。	一夜城祭り・千手とうろう祭り・Ilove遠賀川清掃活動等に積極的に参加する。						
		嘉麻市が主催するボランティア活動への参加を奨励し、ボランディアマインドを育成する。						
保健部	生徒が心身共に健康的な学校生活が送れるようにサポートする。	「命の大切さ」をテーマに講演会を計画・実施し、自他の人権尊重の精神を育成する。						
		毎朝の健康観察を実施し、心身の両面から生徒の状況把握と問題解決に向けての支援をする。						
	教育相談を充実させ、支援を必要とする生徒に適切な対応を行う。	心の健康相談・教育相談を定期的に行い、情報の共有に努め、対応を協議し、必要な支援をする。						
		生徒情報交換会およびいじめ防止対策委員会との相互連携を図り有効な支援をする。						
	特性ある生徒に対して全職員統一した支援を行う。	ＳＣ・ＳＳＷ等の関係機関と連携をとりながら、個性や特性にあわせた支援を考え活用する。						
		サポートヒントシート等を活用し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を参考に生徒支援をする。						
研修部	校内職員研修を実施し様々な教育活動の局面において生徒への支援体制を強化する。	生徒の適性検査分析、特性のある生徒への対処法等の職員研修を企画・実施する。						
		ICT機器を活用した生徒主体の授業を構築するための職員研修を企画・実施する。						
	校外研修に積極的に参加し教員としての資質及び技能の向上を図る。	特別支援教育の校外研修に参加し、専門家の講義を聴講することにより教員の対応力・教育力を養成する。						
		生徒情報交換会において支援を要する生徒の情報交換を行い、具体的な支援対策について教員間の共通理解を図る。						
	生徒対象の人権学習会を各学年年間3回実施し生徒の人権意識の高揚を図る。	人権学習会の事前学習会を各学年実施し、生徒の実態に応じた学習会の在り方を模索しつつ実施する。						
		生徒が積極的に学習会に参加できる雰囲気を醸成し、生徒主体の学習会の構築を目指す。						
1学年	基本的な生活習慣の確立を目指し、自身のスケジュール管理ができるようにする。	手帳を有効的に活用し、自分自身でスケジュールを計画して行動できる力を身に付けさせる。						
		欠席・遅刻等への早期対応に向け、家庭との連携を密に図り、情報の共有を行う。						
	早い段階から進路目標を持たせ、社会に適応できる資質・能力の育成を図る。	キャリア教育を通して勤労意識の向上を図り、保護者と連携して進路実現を目指す。						
		授業規律の確立を図り、挨拶や敬語の使用等を励行させ、社会生活における規範の遵守を意識させる。						
2学年	よりよい人間関係の育成や自己の社会性の向上を意識させる。	ルールやマナーを意識するとともに、他者への配慮等を考えた行動がとれるよう指導を行う。						
		生徒会や委員会活動、ボランティア活動に積極的に参加させ、リーダーシップや責任感、奉仕の精神を養うよう指導を行う。						
	基本的生活習慣に基づいた自己管理能力の育成を行う。	インターンシップ等を通じて進路目標を意識させ、授業や学校を休まないように心懸ける気持ちの伸長を図る指導を行う。						
		周囲の状況等を考慮しながらアフターコロナにおける自らの行動を主体的に判断し行動することができるようにさせる。						
3学年	自らの進路実現のために努力を惜しまず行動し、社会人としての資質の向上と基礎力の定着を図る。	進路に関する情報を常に教員間で共有し、職場見学・履歴書指導・面接指導等を計画的に行う。						
		福祉的就労を希望する生徒に対しては各関係機関と連携を図り、実習などのアセスメントをもとに進路指導を行う。						
	学校や地域のために最高学年としてリーダーシップを発揮し全校生徒を牽引する力量を養う。	学校行事やボランティア活動においてリーダーシップを発揮しつつ率先して行動し下級生の模範となる生徒を育成する。						
		学校行事やボランティア活動を通して、仲間と協調して目標を達成する実践力を養う。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見